

現代社会において「電気」は空気や水と同様、生活、産業、経済活動——情報通信、交通、上下水道に不可欠な存在であり、インフラ中のインフラ、リーディング・インフラとも呼ばれている。電気は目に見えない、色がない、形がない、匂いがない、音がない、重さがない（と感じられる）という特質を要する。まさに、空気と同様である。それでいて「光、熱、音、運動」などの様々な現象（エネルギー変換）を引き起こす。その電気は＋（正極）と－（負極）の対極の因子で成立している。対極関係にある＋と－の正反対の性質因子を同時に作用しあってエネルギーを生み出す。

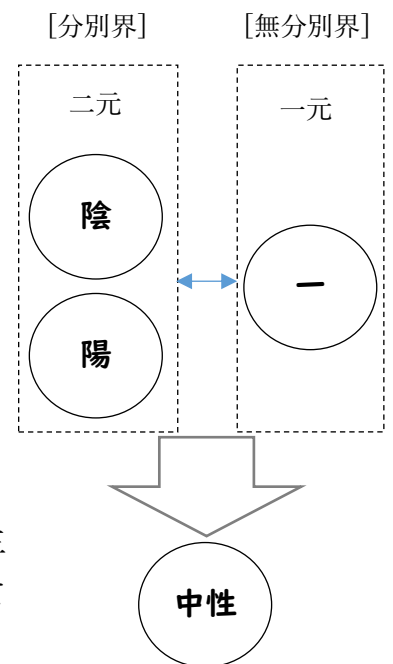
我が国の神社神道の神様も電気と同様の様相——目に見えない、色がない、形がない、匂いがない、音がない、重さがない（と感じられる）という特質を持つ。また、神様は、私は自民党が好きだとか、共産党が好きだとかは言わない、どちらかに加担して優劣を判定することはない。ということは、＋と－の正反対の性質を包含し中性の域に達しているのである。

中性であるが故のどちらかに加担しない、一方に拘泥しないということは、仏教の「色不異空^{しきふいくう} 空不異色^{くうふいしき} 色即是空^{しきそくぜく} 空即是色^{くうそくぜしき}」と同義である。この仏心も目に見えない、色がない、形がない、匂いがない、音がない、重さがない（と感じられる）という特質を有する。

ここに、電気と神様と仏様は同値同相となった。崇仏敬神は日本精神の根底を支える和の心、すなわち、東洋文明の象徴と、電気は西洋文明の象徴との二者融合精華の表出である。合わせて三位一体が醸し出されたのである。三者は共通して黒子に徹底している。イメージ図化すれば、右図のとおり、陰陽二元を合わせた中性ではなく、「一」を合わせた三者統合の新しい中性概念の中にこそ真理が見えて来るような気になった。

人間界は私を含めて俺がオレ我と争うが、神^{かみ} 仏^{ほとけ}と電気は優劣を、先を争わない、そういう世界観を人間社会にもあって欲しい。

一般的には陰陽二元で中和・中性を語るが、私も従来そうであったが、神仏の宗教相にまったく無関係の電気を引っ張って、図の如くに三元で中和・中性の視点を絡めると新しい世界観を得た気持ちになって嬉しくなる、まさに「ごちゃ混ぜ」の妙である。



(end)